

「情報モラルと現代的な課題に関する指導の工夫」

香川大学 植田 和也

1 全教職員による取組 ～組織としての推進、地道な継続を～

- 一人一人が各々の立場で推進する意識をもって

「目的の共有」をしながら、「役割の分担」、「責任の自覚」を通し、組織として地道に実践

目的の共有 役割の分担 責任の自覚の3つを道徳教育推進において大切にしたい。
そのことを通して、学校長の経営方針やビジョンを具体的に描き、共有していこうとする姿勢をチームとして育てていきたい。
そのために、各々の立場で何ができるのか、何に取り組むべきなのかを考えて、小さな一歩からでも実践につなげたい。

- 自校の道徳教育を全教職員一人一人が語れる・・・校内の共通理解と連携
 - ・一人一人の意識を ～ 一人一人が（みんなが）何をすべきか、何のための実践か～
 - ・共通理解から共通行動へ そのために道徳教育計画のP（共通目標）を大切に

- 学校の重点内容と計画への位置づけ
 - ・学校教育目標と道徳教育計画の重点内容
 - ・実践を通して評価による計画の修正（計画カリキュラム、実践カリキュラム）
 - ・重点内容や学校が大切にしたい内容を教育活動全体で

- 何ができるか できることを まず、チェック ○○担当ができること
例「自分の学校でできそうなこと やってみたいこと より改善したいこと」

☆ A校の取組：「子どものよい面（よき、長所、伸び）を認める学級・学校づくり」の道徳教育

☆ B校の取組：情報モラルを大切にしたい道徳教育・・・資料参照

☆ 香川大附属坂出小：自己の学び等を客観し、状態を把握するメタ認知的モニタリング

把握した自己の学び等を必要に応じて修正するメタ認知的コントロール

リ 先 生 ダ 方 へ の し 期 待	<ul style="list-style-type: none">○道徳科の授業：授業を観て分析する力（何を見取るのか、どこで、どのように見取るのか） 授業者・参観者を成長させる力（参観者が自分事として学び取り入れる力） 授業をみせる力（校内で共通理解したいポイントや活動を意識して）○道徳教育：学校経営における道徳教育の視点、全体を俯瞰的に（学校・学年団の重点を意識） 諸計画の見直しや道徳教育をみる視点（各自の分掌から道徳教育を） 情報伝達や状況の共有の視点（コーディネーター役やつながりを）○人間としての倫理観：道徳の意義、人間としての自分を磨く（自らの道徳性） 人間として生きること・人生の意味 学校のモラルや秩序、家庭・地域社会のモラル
--	--

2 今後の校内研修の在り方

① 大切にしたい日々の授業や教育活動とOJT・・・各教員の自立性と組織としての活性化

如何に週1hの道徳科の授業を自分自身が意識できるか

各々が自身のこれまでの道徳授業を振り返り、課題を考えて日々の授業で意識してみましよう。

☆学校で付箋紙等を書いてみて、なかま分けしてみることも。互いの課題を知ることにもなります。

めざす授業を考えると現在のご自身の授業における課題は何ですか？

その課題（改善点）を受けて、日々の授業でより意識していきたいことは？

そのために

② 学年団等での短時間でもできる道徳教育研修を多様に展開

- ・授業研究を通した各個人の授業力向上の側面と学校全体でのカリ・マネ構築の側面
- ・個人研修と学年団、全体研修の組み合わせ
- ・30分研修 例：授業の山場を子どもの姿でイメージできるか

中心発問と予想される子どもの発言や反応を具体的にイメージする・・・30分校内研修シート

③ 校内研修等での授業研究における多様な客観的な記録分析の活用

自分自身の主観的な見方を磨くためにも、多様な客観的なデータや記録も参考に振り返る

「証拠に基づく政策立案（EBPM、Evidence-based Policy Making）を推進」客観的な根拠 Evidence

○ 学習過程や指導方法における傾向の確認

録音や録画で授業を振り返ることは、今まで気付かなかった傾向や状況に応じた適切な対応の仕方などに気付くことにもなる。・・・児童一人一人の学習状況を確認する手立てを用意しておく、それに基づく評価を行うこと・・・。（解説 特別の教科 道徳 116 頁）

自分の授業を常にモニタリングする力の向上に

例えば、良かった点と改善点を自分で気付き、人にも伝えられるように意識してみよう

- ☆ 授業者の授業における動線図・・・児童へのかかわり、個への対応、机間指導
- ☆ 逐語録を通して・・・発言内容や価値の捉え方、深まり等
- ☆ 映像を通して（タブレットの活用等）・・・教師のメタ認知、教師の無自覚的意図による行為分析
- ☆ 教師、児童の占有率（例：S-T分析）・・・教師のしゃべりすぎ、理想と現実のズレへの気付き
- ☆ 児童のノート、表現物、アンケート等から、参観者の声をもとに

教師のメタ認知力を自ら向上させるためにも・・・授業者自身が、授業をしていた時の自分自身について、授業中における思考や瞬時の判断を録画や録音、記録分析等を活用して多面的に振り返る。その際に、自身の言動に込めた意図や適切さについて、再度、客観的に見つめ直すそうとすることで、次回の授業実践時におけるより適切な対応や指導、支援ができるように自らの力量を高めようと意図的にしていくこと・・・。

参観者は、その過程を他人事ではなく、いかに自分のこととして捉えながら、授業を見つめ直すことができるかを大切にしたい。（植田 2018）

3 谷川先生 津森先生の授業に学ぶ

情報モラル：「情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度」解説

①今日の授業で 一番先生方の心に響いた言葉、どの場面でのどの子の発言？それは なぜか？

②教材のもつ価値内容と生徒の発言や学びから 内容項目 B（8）友情、信頼

教材の読み込みと分析：ねらいの明確化。

教師自身が道徳的価値について吟味し考えることの大切さ。

関わり合う場の工夫で ㊦ 友情を育てていくために大切にすべきことは何だと思えますか。

・信頼 ・思いやり・・・ 多面的・多角的な生徒の反応を予想

資料 2 内容の取扱い方・・・H29.7 小学校学習指導要領解説特別の教科 道徳 24-25 頁

（1）関連的、発展的な取扱いの工夫

ア 関連性をもたせる

具体的な状況で道徳的行為がなされる場合、「第2 内容」に示されている一つの内容項目だけが単独に作用するということはほとんどない。そこでは、ある内容項目を中心として、幾つかの内容項目が関連し合っている。・・・中略・・・道徳科の指導に当たっては、内容項目間の関連を十分に考慮したり、指導の順序を工夫したりして、児童の実態に応じた適切な指導を行うことが大切である。そして、各学年段階を通して、全部の内容項目が調和的に関わり合いながら、児童の道徳性が養われるように工夫する必要がある。

イ 発展性を考慮する（省略）

（2）各学校における重点的指導の工夫

・・・重点的指導とは、各学年段階で重点化されている内容項目や学校として重点的に指導したい内容項目をその中から選び、教育活動全体を通じた道徳教育において具体的な指導を行うことである。・・・重点的に指導しようとする内容項目についての扱いを工夫しなければならない。例えば、その内容項目に関する指導について年間の授業時数を多く取ることや、一つの内容項目を何回かに分けて指導すること、幾つかの内容項目を関連付けて指導することなどが考えられる。

③ メッセージアプリを用いた3つのやりとりの特徴・・・タブレットを用い、メッセージアプリでのやりとりに直接書き込みながら考えさせる。

資料・・・H29.7 中学校学習指導要領解説特別の教科 道徳 99-100 頁

イ 情報モラルへの配慮と道徳科

情報モラルに関する指導について、道徳科では、その特質を生かした指導の中での配慮が求められる。道徳科は道徳的価値に関わる学習を行う特質があることを踏まえた上で、指導に際しては、情報モラルに関わる題材を生かして話し合いを深めたり、コンピュータによる疑似体験を授業の一部に取り入れたりするなど、創意ある多様な工夫が生み出されることが期待される。

ア情報モラルと道徳の内容 ・ ・ H29.7 中学校学習指導要領解説特別の教科 道徳 99-100 頁

道徳科：情報社会の倫理，法の理解と遵守

例えば，思いやり，感謝や礼儀に関わる指導・・・インターネット上の書き込みのすれ違いなどについて触れたり、遵法精神、公德心に関わる指導の際に，インターネット上のルールや著作権など法やきまりに触れたりすること

情報機器を使用する際には，使い方によっては相手を傷つけるなど，人間関係に負の影響を及ぼすこともあることなどについても，指導上の配慮を行う必要



図1 情報モラル教育の2領域と5分類（キックオフガイドより）

4 情報モラルを育む道徳の授業づくりにおいて

(1) 道徳授業の要といえる教材分析、吟味をしっかりと

①中心場面やストーリーに記載された情報モラルに関する生徒に負けない内容の理解

例：既読スルーやネット上のいじめに関する（例えば、LINEはずし等）内容の理解や目の前の子どもの心情を子どもの立場で予想（理解）できるか。

SNS活用の子どもたちの世界の微妙な関係や心情の類推がどの程度できるか。

②あらすじや登場人物の心情の変容だけでなく、道徳的・倫理的問題や人間を読む

例：教材に描かれている道徳的問題は、倫理的に何が問題なのか。

主人公を通して人間としての弱さや醜さをどのように解釈しているのか。

③多様な教材と提示の工夫、出あわせ方

例：より現実感を持たせるためにICTを活用して・・・。

④本教材の内容でクラスの中につらい思いをする児童生徒いないだろうか、特に配慮は。

(2) 教師としての指導観～中心となる内容項目（価値内容）についての分析～

①中心となる内容項目と情報モラルとの関連や教師の意図を整理

例：授業で扱う教材において、情報モラルをどのような視点で授業者は捉えているのか。

また、学習指導要領解説の内容項目と情報モラルとの関係や捉えを指導案の主題観等どのように記載されているか。

②教材に描かれている中心となる価値と関連する価値をどのように捉えているのか。

③情報モラルを育む観点からも、ねらいが明確になっているか。

☆ 少なくとも教師は「資料を超えた生き方の問題として何を学び取ってほしいのか、

何を気付かせたいのか、何について話し合わせたいのか」を考えておきたい。

④問題意識をもつ・・・学習のめあてにつなげる

- ・ 主題や自分が描いている価値への疑問を大切に（自分はどう思っているが、本当にそうなのだろうか）
- ・ 自分の視点から他者の視点に変換
- ・ 今の自分とよりよい自分、理想の自分を比較して
- ・ 大切だと思う意識と実際の行動とのズレに着目して

(3) 日常生活につなげるための工夫をどのように考えるか

- ・ 本時の学びや考えをより効果的にし実践につなげるために
例：本時の1時間だけで十分に理解し育めなくても、事後の指導の工夫や日常生活の中での意識を高めるための手立てはないだろうか。
家庭に協力を依頼できることはないだろうか。家庭の考え方に影響される部分が多い
例：携帯の所持・利用の約束等、授業参観を活用して保護者もともに考えてもらう授業づくりは・・・。また、小中高の連携など。
- ・ 道徳の授業を核に単元を組んでの実践
例：ネット依存症ゲーム障害を中心に考えるなら、養護の先生にも協力を依頼して身体面の影響（睡眠不足によるだるさや不定愁訴等）や学校生活への影響も・・・。
技術・家庭や学級活動との関連でインターネットとの上手な付き合い方や適切なコミュニケーションを考えることは・・・。何か効果的な疑似体験はできるのか。

(4) 校種を超えての連携と互いの内容理解

- ・ 小学校の段階で考えられる具体的な目標
- ・ 発信する情報に責任を持つ
- ・ 情報社会での自らの行動に責任を持つ
- ・ 情報に関する自分や他者の権利を尊重する
- ・ 情報社会のルールやマナーを守る
- ・ 情報を正しく安全に利用する
- ・ 健康に留意して情報機器を活用する
- ・ 情報社会での危険な面を理解し身を守る
- ・ 不適切な情報を回避・対応できる
- ・ 情報セキュリティの基本を知り対応できる
- ・ 情報社会に対して公共的な意識を持ち対応できる

小低学年：あいさつ、わる口をかく、生活等で、でんわの対応や気をつけること

小中学年：相手のことを考えた礼儀や行動、写真と肖像権

総合等で、デジタルカメラ使用のマナー、肖像権、文字だけで伝える難しさ
伝聞情報の真偽、合成写真作りで著作権

小高学年：情報の広がりとは他者の権利を守ること

総合等で、ネット上で知り合った人との約束は危険、ホームページやWebページの情報、個人情報
情報の流出と保護、電子メールを送信するときのルールとマナー

迷惑メール、肖像権、著作権の尊重の仕方、ネット依存症、ケータイ社会と私達の暮らし
(情報モラル指導モデルカリキュラム、「情報モラル」指導実践キックオフガイドより)

◎ 現代的な課題の扱いと問題解決的な学習について

解説 指導の配慮事項 5 問題解決的な学習など多様な方法を取り入れた指導

6 情報モラルと現代的な課題に関する指導

問題解決的な学習の視点を一部に取り入れることも、発達段階や教材の特性等に応じて柔軟に考えてみましょう。そのためにも、しっかりと確認を。

1 解説等での要点を確認

- ・指導のねらいに即して、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなど・・・
- ・また、実生活においては、同じ事象でも立場や状況によって見方が異なったり、複数の道徳的価値が対立し、単一の道徳的価値だけでは判断が困難な状況に遭遇したりすることも多い。

2 問題とは：教材の中に描かれている何が問題なのか、

- ・学習指導要領、答申等から
 - ①道徳的問題を ②自己の問題として捉え ③その解決を目指す学習
 - ④道徳科の目標の実現やその時間のねらいの達成に資する学習

3 問題の態様（場面）について

- ① 道徳的諸価値が実現されていないことに起因する問題
- ② 道徳的諸価値についての理解が不十分又は誤解していることから生じる問題
- ③ 道徳的価値のことは理解しているが、それを実現しようとする自分とそうできない自分との葛藤から生じる問題
- ④ 複数の道徳的価値間の対立から生じる問題 など

これらの問題構造を踏まえた場面設定や学習活動の工夫を

4 多様な問いかけ、発問を具体的にイメージしてみる

例：道徳的問題に気づく 見つける

〇〇の考え方のどのようなところに問題があるのでしょうか。それはどうしてですか。

〇〇の行動のどんなところが問題だったのでしょうか。それはどうしてですか。

この話の中で、おかしいと感じたり、どうして？と思ったりしたことはありませんか。

道徳的問題の背景や理由に着目させるような場合

このような問題は、〇〇のどのような心が引き起こすのでしょうか。

道徳的問題の解決に大切な考え方や心の持ち方について深める場合

〇〇は、これからどんなことを心がけて〇〇をしていけばよいのでしょうか。

問題場면을自分に当てはめて考えてみることを促す場合

もし、あなたが〇〇であれば、この場面でどうすると思いますか。（どのように考えると思いますか。）

それは、なぜですか。

もし、あなたが、主人公の〇〇を見ている立場なら、どのようにしてほしいと望みますか。それは、どうしてですか。